
算数科教育研究部会

「子どもとつくる楽しい授業の創造」 ～楽しく学び、高め合う算数学習をめざして～

I 主題設定の理由

今、子どもたちや学校現場を取り巻く状況は、めまぐるしく変わってきている。「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことを目指し、「自ら学び、自ら考える力の育成」を図ることを強調していた「ゆとり」をキーワードとした指導要領は、学力低下を懸念する社会の要請に伴い、軌道修正され、「指導要領は最低基準」と解釈を変更し、学力向上重視に転換している。これを受け教科書には、削減された内容が発展的学習として掲載されるようになった。

このような中にあるには、基礎・基本とは何かをもう一度吟味し、子どもを主体とした教育活動を進めていくことによって学びの質を高めていくことが重要であると考え。そして、子どもたちの学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力を含む学力の向上に努めることが大切である。

算数科においても、個々の児童の実態をしっかり把握し、個に応じた指導を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、算数的な活動を通して自ら学び、考える力を伸ばしていかなくてはならない。また、どの子にも「わかった、できた」という満足感も持たせるとともに、考えることのおもしろさ、算数学習の楽しさを味わわせていくことが重要になってくる。さらに、それぞれの子どもたちの考えを大切に、お互いに高め合う授業をつくっていく必要がある。本部会では、「楽しく学び、高め合う算数学習」を展開し、楽しい学びの場を作り出していくことが、自ら学び、考える力を育むことにつながっていくと考え、本テーマを設定した。

II 研究の内容

- ・互いに交わりあいながら、高めようとする小集団活動の場を工夫すること
- ・具体的・体験的な操作活動を重視すること
- ・個に応じた指導を工夫すること

上記3点を視点として「楽しく学び、高め合う算数学習」をめざし研究を進めてきた。

1 研究授業と検証

「互いに交わりあいながら、高めようとする小集団活動の場を工夫する」授業

授業者 天野 有紀教諭 加納岩小

学年 1学年 単元名 「ふえたりへったり」

話し合いより

・課題把握の際、“バスごっこ”という体験的活動を取り入れたことは、子どもたちの意欲を高め、課題をつかむのに有効であった。課題解決の場面では、自分の考えを絵やブロック、文、式と様々な自分なりの方法で表現していた。自分の得意な方法で考えを發揮する場面設定がよかった。1年生の段階では、文章で表現したり、相手に要点を分かりやすく伝えることは、まだ難しい。そのため、本時の授業では、担任が話し合いの中心となって子どもたちの意見を拾いまとめながら進めていった。これは、1年生として適切な授業の運び方であった。その結果、子どもたちが互いの意見を聞き合いながら、学び合っている姿が多く見られた。

・子どもたちが話し合いを高め合うということは難しい。本時の場合のように教師が核となって授業をするのであれば、子どもの意見を待つ姿勢を持ち、子どもの考えを引き出すための発問の仕方など教師の技術を磨くことが必要である。また、話し合い活動は、時間がかかる。だからこそ小集団活動が効果的な場面を選んでいくことが必要となる。

2 学習会

笛吹市立富士見小学校公開授業研究会に参加。

3 研究の視点にかかわった指導についての実践及び情報交換

部員が各自実践を持ち寄り、学び合った。

4 小学校と中学校合同の交流授業研究会での情報交換

Ⅲ 成果と課題

1 成果

・小学校と中学校合同の交流授業研究会では、授業を見合うだけでなく、小・中学校の現状などを出し合う中で互いの交流が図れた。

・授業研究については、3回にわたって、授業内容の検討、授業資料準備、理論研究を行った。「互いに交わりながら、高めようとする小集団活動の場を工夫する」ことを重視した授業展開で、テーマに大きく関わることができた。

・11月の学習会に、富士見小の公開授業を充てたが、大変有意義であった。また、紹介された日常実践の取り組みも役立つものであった。

2 課題

・小学校と中学校交流の授業参観は大変有意義であるが、研究会では、個に応じた指導のあり方など、話し合いの柱を決めて意見交換ができるとさらによい。

・各自の実践授業の報告が多く提案され、互いに学び合うことができてよかった。しかし、時間が足りず未消化の部分があった。焦点化された話し合いができるとよい。

(部長 一瀬 麻子)